

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
大阪バイオメディカル専門学校	平成16年3月30日	木谷秀次	〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内1-14-30 (電話)06-6251-8103																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人佐藤学園	平成16年3月30日	細川智吉	〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内1-14-30 (電話)06-6251-8103																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
商業実務	商業実務専門課程	医療事務総合学科	39871	-																		
学科の目的	専門的な知識を身に付けると同時に、生活態度や身だしなみ、接客マナーなどの人間力も身に付けた医療事務のスペシャリストを育成する。																					
認定年月日	令和2年3月25日																					
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																
2	1700	1110	1785	160	0	0																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
160人	118人	0人	5人	13人	18人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業出席点および学年末試験並びに実習成果等の学習																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～9月7日 ■冬季:12月23日～1月7日 ■学年末:3月1日～3月31日	卒業・進級条件		各学年終了時において、講義科目、実験・実習科目ごとに規定された以上の単位時間を修得した上で、出席すべき授業日数及び各講義科目時数のそれぞれ3分の2以上出席していること。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 毎学期ごとに個別相談を行い、学生個人の意思を確認するとともに、将来に向けた指導を行う。	課外活動		■課外活動の種類 各種ボランティア、環境活動、各種学会への参加等、積極的に奨励している。 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 医療機関、クリニック、薬局等 ■就職指導内容 学生個人の進路希望を把握したうえで、学内での企業説明会、ハローワークの活用などを推奨するとともに、面接指導や書類作成指導などを行う。 ■卒業生数 56 人 ■就職希望者数 55 人 ■就職者数 55 人 ■就職率 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 98 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等)※3		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療事務作業補助者実務能力認定試験</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>2級医療秘書実務能力認定試験</td> <td>③</td> <td>42人</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>介護報酬請求事務技能認定試験</td> <td>③</td> <td>53人</td> <td>33人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※別列の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	医療事務作業補助者実務能力認定試験	③	17人	12人	2級医療秘書実務能力認定試験	③	42人	34人	介護報酬請求事務技能認定試験	③	53人	33人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
医療事務作業補助者実務能力認定試験	③	17人	12人																			
2級医療秘書実務能力認定試験	③	42人	34人																			
介護報酬請求事務技能認定試験	③	53人	33人																			
中途退学の現状	■中途退学者 5名 平成31年4月1日時点において、在学者117名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者112名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 精神的疾患、経済的理由、進路変更など ■中退防止・中退者支援のための取組 定例会議における各担任からの学生状況報告により情報共有を行っている。退学につながりそうな学生、状況		■中退率 4%																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※佐藤学園奨学金制度を設け、毎年4月に進級した学生の中から、成績が優秀かつ他の学生の模範となる者に対して、奨学金を恵与します。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科のホームページURL	https://www.obm.ac.jp/																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
③上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業現場、業界団体等で求められる知識、技術との乖離がないか、また将来に向けて求められる知識、技術等を検証するため、本校校長の下に教育課程編成委員会を設置。年2回委員会を開催し、業界動向、意見を聴取し、本校教育課程、実習等の授業内容改善に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校校長の下に教育課程編成委員会を設置し、委員会開催内容について校長、推薦学科学科長、主任講師、担当講師がカリキュラム検討会議で審議を行い、校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2020年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
忌部 周	都島区医師会 理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
植中 勇人	社会医療法人生長会 ベルランド総合病院	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
木谷 秀次	大阪バイオメディカル専門学校 校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
中原 かおる	大阪バイオメディカル専門学校 医療事務総合学科長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
櫻井 敬太	大阪バイオメディカル専門学校 医療事務総合学科主任講師	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
神影 亜弥	大阪バイオメディカル専門学校 教育部ジュニアマネージャー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
森 健一	大阪バイオメディカル専門学校 教育部マネージャー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年9月28日 10:00～11:00

第2回 令和3年2月 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

自分とは異なる環境にある人たちの立場に立った対応ができるように、学生指導を行ってほしい旨のご指摘があり、授業内でのコミュニケーションなどを通じて、学生に考えさせる機会を取り入れていく方針を検討する。

卒業生の大半は、医療機関等の医療関係職に就業するため、要介護者の来院も予測されるため、介護方法の学びも必要ではないか?とのご指摘があり、要介護者を疑似体験する実習を取り入れることとした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

推薦学科で指導する技術が実際の現場で活用できるのか。また、実習・演習等で学ぶ知識、技術はあくまで基本的なものであるため、最前線の現場で各企業、団体等が重要視する知識、技術の習得と乖離があることは否めない。そこで、基本・最新を問わず各企業、団体等が重要視している知識、技術の習得を目的とし、連携企業、団体等との協力の下、校内及び校外における実習・演習等を実施する。また、社会人にとって必要不可欠な人間力や礼儀等を身に付ける機会としても重要な位置づけにある。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等で必要とされる知識・技術の習得および社会人として必要不可欠な人間力や礼儀等を身につける。また、実際の現場における業務の流れ、授業、実習・演習等で身につけた基本知識をどの程度活用できるかを学生自身が把握し、実習終了後の復習等でさらなる実践力を身につける。実習評価については、医事業務・受付業務・庶務的業務等を指導教官の指示の下、実践力が見込まれるか否かを評価対象とする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
病院実習	4週間の実地実習で病院業務の概要を学ぶ。また、様々な医事関連職種を理解を深める。	社会医療法人生長会 ベルランド総合病院 医療法人藤井会 石切生喜病院 など

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修等は、本校教員に対して、現在就いている職、または将来就くことが予測される職にかかる職務の遂行に必要な知識、技能等を修得させることにより、その職務の遂行に必要な教職員の能力、資質等の向上を図ることを目的として、各教職員が研修等を受講できるよう大阪バイオメディカル専門学校「教職員研修規定」を定める。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本医療秘書学会 第18回学術大会」(連携企業等：一般財団法人日本医療秘書学会)

期間：2021年2月21日(日) 対象：医療事務総合学科常勤講師

内容：医療秘書現場で求められる知識、技能について、広い知見を修得し、学生指導に活用する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「中堅教員研修会」(連携企業等：一般財団法人職業教育・キャリア教育財団)

期間：2020年8月24日(月)～8月26日(水) 対象：大阪バイオメディカル専門学校常勤講師

内容：自らが組織の中で活躍するために、自らが主体的かつ自律的に将来設計を行い、学校と教員自身が成長することで、学生指導力を高める。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本医療秘書学会 第19回学術大会」(連携企業等：一般財団法人日本医療秘書学会)

期間：2022年2月予定 対象：医療事務総合学科常勤講師

内容：医療秘書現場で求められる知識、技能について、広く知見を習得し、学生指導に活用する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「中堅教員研修会」(連携企業等：一般財団法人職業教育・キャリア教育財団)

期間：2021年8月予定 対象：大阪バイオメディカル専門学校常勤講師

内容：学校教育において、後進の指導等を含め、教育振興に尽力することが期待される教員を育成し、学生指導力の向上、学生満足度の向上を図る。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

企業等の学校関係者への情報提供を行い、フィードバックをいただくことで、より実社会のニーズに応じた学生指導を図るため、各種情報提供を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・教育理念を定められているか。・学校の特色が明確であるか。等
(2)学校運営	・運営方針は定められているか。・意思決定システムは確立されているか。等
(3)教育活動	・各学科の教育目標、育成人物像は、その学科に対応する業界人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか。・カリキュラムは体系的に編成されているか。等
(4)学修成果	・資格取得率の向上が図られている。・退学率の低減が図られているか。等
(5)学生支援	・学生相談に関する体制が整備され、有効に機能しているか。等
(6)教育環境	・施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。等
(7)学生の受入れ募集	・学生募集は適切に行われているか。・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。等
(8)財務	・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。・予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。等
(9)法令等の遵守	・法令、設置基準等の順守と適切は運営がなされているか。・個人情報に関し、その保護のための対策が採られているか。等
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設や活用した社会貢献を行っているか。等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価の結果をもとに、学科運営、学校運営の改善、改革を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2020年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
浅野 裕三	株式会社ボゾリサーチセンター	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
待田 裕美	株式会社総合水研究所	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
飯野 修芳	大阪市中央区地域振興会	2019年4月1日～2021年3月31日	地域住民
森岡 聖子	主婦	2019年4月1日～2021年3月31日	卒業生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページに毎年夏頃掲載)

URL: <https://www.obm.ac.jp/>

公表時期: 2020年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・学校概要
(2)各学科等の教育	学科紹介、施設・設備
(3)教職員	学科長紹介、obmの先生たち
(4)キャリア教育・実践的職業教育	資格サポートシステム、就職サポートシステム、インターンシップ
(5)様々な教育活動・教育環境	学科紹介、施設・設備
(6)学生の生活支援	学生寮
(7)学生納付金・学修支援	学費・各種制度、特待生制度
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	学校自己評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.obm.ac.jp/>

#	○	ビューティケア I	メイクの心理的・外的効果を学び、実践力を身に着ける	1 前	30	2	○	○	○				
#	○	ビューティケア II	メイクの心理的・外的効果を学び、実践力を身に着ける	1 後	30	2	○	○	○				
#	○	アロマセラピーA	アロマセラピーの基本を知り、生活や美容に役立てる	1 前	30	2	○	○	○				
#	○	アロマセラピーB	アロマセラピーの基本を知り、生活や美容に役立てる	1 後	30	2	○	○	○				
#	○	アロマセラピーIII	アロマセラピーの実践力を身につけ、検定合格力を養う	2 前	15	1	○	○	○				
#	○	化粧品検定 I	化粧品検定3級合格のための知識・技能を習得する	2 前	30	2	○	○	○				
#	○	化粧品検定 II	化粧品検定2級合格のための知識・技能を習得する	2 後	30	2	○	○	○				
#	○	医療秘書	医師事務作業補助者としての基本的な知識を習得する	2 通	60	4	○	○	○				
#	○	クラーク学	クラークとして働くための心構え、知識を学ぶ	2 前	30	2	○	○	○				
#	○	医事コンピュータ特論	レセプト作成および窓口入力の操作方法を学ぶ	2 後	30	2	○	○	○				
#	○	電子カルテ特論	電子カルテのメリット、デメリットを学ぶとともに、入力方法等の知識、技能を習得する	2 後	30	2	○	○	○				
#	○	調剤事務コンピュータ	調剤事務で学んだ知識をもとに調剤事務入力の使用方法を学ぶ	2 前	15	1	○	○	○				
#	○	秘書特論	ビジネスマナーの知識・技能を習得し、即戦力としての実務を養う	2 通	60	4	○	○	○				
#	○	英会話 I	日常およびビジネス上の英会話の基礎を身に着ける	1 前	30	2	○	○	○				
#	○	英会話 II	日常およびビジネス上の英会話の応用力を身に着ける	1 後	30	2	○	○	○				
#	○	手話 I	聴覚障害者と接する感覚を身に着け、言語としての手話を理解する	1 前	30	2	○	○	○				
#	○	手話 II	手話 I で学んだ知識を基に実践力を身に着ける	1 後	30	2	○	○	○				
#	○	医療事務	手書きによる治療費の計算方法を学び、医療事務の基礎知識を身に着ける	2 通	60	4	○	○	○				
#	○	診療報酬対策 I	診療報酬点数見解の使い方をマスターし、医療事務検定対策を強化する	2 前	60	4	○	○	○				
#	○	診療報酬対策 II	医療事務管理士取得のための対策を行い、レセプト作成の知識を深める	2 後	60	4	○	○	○				
#	○	医療会計実務 I	医療会計事務に係る知識・技能を学び、修得する	1 前	30	2	○	○	○				
#	○	医療会計実務 II	医療会計事務に係る知識・技能を学び、修得する	1 後	30	2	○	○	○				
#	○	就職対策	志望動機、面接力の強化を図り、内定を目指す。	2 前	30	2	○	○	○				
#	○	インターンシップA	インターンシップを通じ、実践力を身につける	2 通	90	3		○	○	○			
#	○	インターンシップB	インターンシップを通じ、実践力を身につける	2 通	90	3		○	○	○			
#	○	インターンシップC	インターンシップを通じ、実践力を身につける	2 通	90	3		○	○	○			
#	○	インターンシップD	インターンシップを通じ、実践力を身につける	2 通	90	3		○	○	○			
#	○	インターンシップE	インターンシップを通じ、実践力を身につける	2 通	60	2		○	○	○			
合計				56科目		3055単位時間(184単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
定期試験、課題提出、出席点を加味した成績評価において、「C」以上の科目の履修合計時間が2年間の累計で1700単位時間以上あること		1学年の学期区分	2期
(留意事項)		1学期の授業期間	15週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。